

じぎょう

自業のすすめ

へ自分ならではのビジネス&ライフスタイルで

誰かのためになり、人生にバランス、社会に多様性



1995年からの20年と、2015年からの20年。デジタルライフスタイル社会から、A Iライフスタイル社会への入り口に立つわたしたち。今ある仕事の約半分は人工知能やロボットに代わるという調査結果はそのほんの一端。ビジネスの種類・あり方、働き方、生活の仕方、どれもが、今の延長戦では考えられない近未来。人間ならでは、他の誰でもない自分ならではの仕事と人生の創造、ライフワークを掴む道程。葛藤を許容し、超然と構えて進む先に、自分ならではの仕合せ。

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi

じぎょう

自業のすすめ 目次

1 自業のすすめ

二〇一六年三月二十五日ホームページ掲載

2 へ自分ならではのの知り方

二〇一六年三月三十一日ホームページ掲載

3 へ自分ならではのの起ち方

二〇一六年四月十四日ホームページ掲載

4 へ自分ならではのの受け容れ方

二〇一六年四月十一日ホームページ掲載

5 へ自分ならではのの究め方

二〇一六年四月十九日ホームページ掲載

6 へ自分ならではのの終り方

二〇一六年四月二十二日ホームページ掲載

自業の精神を後押しする先達・書籍

二〇一六年四月十三日ホームページ掲載

あとがき

二〇一六年四月二十二日

1

自業のすすめ

じぎょう

- i 自業という言葉
- ii 時代の流れ、社会の変化
- iii 先達の予知
- iv 四%の顕在、九六%の潜在
- v 問題意識
- vi 時機・タイミング
- vii 絶妙の出会い
- viii 終末の自画像

業 (広辞苑)

「ぎょう」 しごと、わざ、くらしの手だて・なりわい。つとめ、学問・技芸

「ごう」 (仏)行為。行動。身(身体・口)言語・意(心)の三つの行為(三業)

「なり」 生活のための職業、生業。なりわい

「わざ」 神意のこめられた行事、深い意味のある行為、つとめとしてすること、

しかた・方法・技術、仏事・法事、こと・ありさま・次第、他

自業という言葉

自業は「じぎょう」と読みます。そのコロは、「自分にとって、自然に気が向き、労苦をいとわず、たのしく感じられて、誰かのためにもなる業（なりわい）を一生の仕事として人生を全うする生き方」。平たくいえば「自分ならではの仕事とライフスタイル」。自分自身の才と可能性を無理なく拓く道、型です。

「自分ならではの」は、「自分文化」にあたります。個々人の持つ生まれた資質と、その資質が生活環境の中から掴みとり育んでいく価値観、思考様式、行動規範。その人の生活文化。よくもわるくも誰もが自分の文化を培っています。社会生活は常に「異文化」の交わり。

かつては「二億総中流」といわれた社会も今は昔。格差が定着した社会ですが、多様な生き方を許容する社会にもなったと言えます。デジタルな社会、AIな社会がこれから働き方生き方をどう変えていくかは想像を絶しますが、先行きの選択はきわめて個人単位で迫る世の中になることは間違いないありません。

「自分ならではの」の仕事で誰かのためになり、自分に合った暮らしをする。これこそ、「いい暮らし」ではありませんか。

時代の流れ、社会の変化

日本におけるインターネット元年は一九九五年。電車内の八割が立っていても座っていない、電車の顔を向けてゲームやSNSに気をとられていて、二十年でここに至った社会です。日本における人工知能元年は二〇一五年と言ふことになりそうです。

前年二〇一四年八月に「ワトソン」のことが新聞で紹介されて以来、人工知能のニューリスを追っています。インターネットが社会に広がり始めた同時期に脳型コンピュータや人工知能の開発も試みられていて、関連する本を読んだものです。「人工知能のインパクトが想像できるのです」。

二〇一五年十二月に野村総研が発表したレポート。今後十年から二十年の間に既存の仕事の半分ほどは人工知能やロボットに代わるといふもの。代わらないのは、「創造性、協調性が必要な業務、非定型的な業務」。経営コンサルタント、中小企業診断士はその部類に入っていました。

「自分ならではの」の視点や問題意識、感性、知識や技能などを総動員し、人間ならではの、自分ならではの業を創造し、生き暮らす。自分ならではの「究極のサバイバル」かもしれません。

先達の予知

持つてうまれた資質と条件がそうさせるのか、独立を思い立った時から、"他の人"にはそう簡単にできない、わたしだからこそできる業のカタチってなんだろう：「と考え続けました。『人と同じということにみんな安心するんですよ』と誰かが言ったとき、ああ、そういう感覚、センスはまったく持ち合わせていなあと気づいたものです。他の誰でもないへわたしへやるべきことは何か。」

二〇一〇年秋、日経新聞の下段に目がとまりました。本の広告です。『1991-2003 ドラッカーの講義』（アチーブメント出版）の一文が紹介されていました。「自業」の後押しを得たようで、切り抜きは今も大切にしています。

『人類の歴史上初めて、私たちは自分自身を経営する責任を負わされるのです。これはおそらくどんなテクノロジーよりもはるかに大きな変化です。（略）当面は非凡な能力を持つ人たちが何らかの貢献をしたい、先頭に立って充実した人生を送りたい、この地球における自分の存在に何かしらの意味があるのだと感じたい、と考えることでしょう。彼らは、数年前にごく一部の超人だけにわかっていた何かを学ばなければならなくなるでしょう』

四%の顕在、九六%の潜在

今のところ、宇宙全体が何でできているか、わかっているのは約四%にすぎないといえます。人間のことも、わかっているのはその程度ではないでしょう。文化、医学的にも人文科学的にも。文化、文明が発展するごとに、いかにわかっていかなかったかが、わかる。友人知人どうし、互いに相手のことをわかっていない度合いも四%程度とふめば、未知の発見のたのしみがある。

自分のことだって、わかっていないのは四%程度かもしれない。自分では当たり前すぎて、意識しないもの。他人が自分を映す鏡になり、時に直接指摘されて、喜んだり落ち込んだり。そうして少しずつ、自分ならではを手繰り寄せる。できれば早く、「どころんでもこれが自分！」と認め、へ自分ならではの発見を発展の途につきたいものです。

へ自分ならではの核心は持つて生れた資質あるいは本質。本質を辞書で引くと、質、あるものを成り立たせている独自の性質、あるいは内奥に潜む恒常的なもの。あなた自身を成り立たせている本質が、外の世界と接点をもち、未知の自分を拓き、自分史、「自分文化」史をつくっていく。発見と発展の愉しみがそこにあります。

問題意識

① 内省型
② 外向型
③ 憧憬型

問題意識の先にテーマが生まれます。

問題意識の先にテーマが生まれます。自分自身に対して、あるいは社会の出来事や状況に対して、これでいいのだろうか：・・・という疑問や着眼。ある人は街角に増えたホームレスたちの姿を見て、ある人は昼間は空いている家庭の駐車スペースを見て。どこにアンテナが向くかは、その人が育んだ精神。そして自分が何とかしようと思ひ立った人の実践の一つが起業。

せん。自業は「内向型」は、起業の典型かもしれない。業を生み育てやすい。さて「憧憬型」はと
いうと短命の可能性がありす。なぜな
ら、問題意識が希薄なだけに、イザという
時のふんばり、目の前のハードルを乗り越

時機・タイミング

「迷う前に体が動いていた」と言うはず。一抹の不安も無くはないけど、もう体の方が自然に動いていたと。起業に向けてアンテナを張り、行動し、構想し、晴々とした高揚感さえある。

自業 起業を決意する好機はそういう状況のときです。起業後の長い道程、荒波も必ず訪れますが、出発時点の思いがそれを超えさせます。いまの時点で起業なんて想像していなくても、ほんの数ヶ月後に、そうだ自分でやろうと閃く。セレンディビティー（思わぬものを偶然発見する能力）というものかもしれません。

独立志向が昔からあったという人はあえてタイミングを測る。自分の気持ちか、自分に高まっているか、体が自然に動くか、自分によく問いかけることです。もし迷いが勝っていると感じたなら、時間をおきましよう。今はその時ではありません。自分で不思議なくらい迷いがとれて、起業へと頭も体も向かっていく。そのタイミングで、いざ、新しい世界へ。

絶妙の出会い

起業は簡単、継続は至難。へ自分ならでは
 の業となると、なおさらです。「自分文
 化」がはっきり表し現れるほど、共感共鳴
 する層もはっきり表し現れるほど、共感共鳴
 二割程度を了解しておきたいもの。ただし
 実際、顧客となるのはそこからさらに約二
 割、全体からすると四％程度とふんでお
 く。一〇〇名の四％程度。
 さらうち本当に長い付き合いになるの
 に見え、利益は小さいか、もしもよくなる
 も、それ仕事を超えた個人としての仕事
 い、ど、仕事を超えた個人としての仕事
 係、よくこの経験と「私」の履歴書の履
 る、出、人、の履歴書は「私」の履歴書
 る、出、人、の履歴書は「私」の履歴書
 だ、と、つくづく思いますが、私の履歴書
 「類」は友を呼ぶ「と」はよく言ったもの
 同、じ、社会に住んで、ともよく言ったもの
 文、化、を共感し合えて、人たちが、ど、か、に、生、活、す
 す、類、の、誰、か、と、自分、の、時間、を、空、く、ち、に、ま、す
 る、の、時、間、が、長、い、人、生、の、ほ、ん、ま、の、す
 一、瞬、の、す、き、間、に、絶、妙、の、出、会、い、が、組、み、込、ま、れ、る
 れ、一、瞬、の、す、き、間、に、絶、妙、の、出、会、い、が、組、み、込、ま、れ、る

終末の自画像

境、「人生の終わりを迎えるあなたはどのような心
 尋ねて、況、直、感的、に、浮、かん、だ、い、め、す、か、の、よう、な、心
 い、言、葉、を、二、行、で、書、く、こ、こ、に、そ、の、人、の、あ、る、心
 値、観、や、人、生、の、観、が、表、れ、ま、す、こ、こ、に、そ、の、人、の、あ、る、心
 ず、最、初、に、受、講、者、に、表、れ、ま、す、こ、こ、に、そ、の、人、の、あ、る、心
 場、面、が、人、生、の、最、終、型、へ、向、か、っ、て、進、ん、で、い、る、こ、こ、に、そ、の、人、の、あ、る、心
 踏、襲、し、て、い、な、け、れ、ば、意、味、が、あ、り、ま、せ、ん、こ、こ、に、そ、の、人、の、あ、る、心
 の、ま、ち、ろ、ん、の、自、画、像、を、尋、ね、て、返、っ、て、く、る、住、み、て、は
 「ま、び、り、暮、ら、し、な、か、ら、最、期、を、迎、え、る、息、を、ひ
 き、と、る、」これ、現、在、の、思、考、の、か、ら、象、徴、的、な、息、を、ひ
 ま、で、る、」本、当、に、現、在、の、思、考、の、か、ら、象、徴、的、な、息、を、ひ
 く、表、れ、ま、す、二、〇、四、年、の、頃、に、独、立、相、談、で、よ
 会、っ、た、二、十、代、前、半、の、女、性、の、答、え、は、今、も、印、象
 に、残、っ、て、い、ま、す、
 「フ、ー、テン、の、寅、さん、み、たい、な、人、生、を、送、る、っ
 て、い、る、」若、く、は、愛、し、み、たい、な、人、生、を、送、る、っ
 答、え、に、そ、の、コ、ロ、を、聞、き、返、し、た、の、あ、る、怪、る、っ
 訝、な、顔、で、し、た、コ、ロ、を、聞、き、返、し、た、の、あ、る、怪、る、っ
 え、っ、ま、り、ま、し、た、コ、ロ、を、聞、き、返、し、た、の、あ、る、怪、る、っ
 す、て、あ、ら、た、め、生、涯、を、限、り、あ、る、人、生、の、超、然、と、構、え
 、自、分、の、生、涯、を、限、り、あ、る、人、生、の、超、然、と、構、え